



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

茅ヶ崎方式30年記念講演会 開催迫る！

4月7日(水)茅ヶ崎市にて、茅ヶ崎方式30周年記念講演会が開催されます。すでに多数の方からのお申し込みをいただき、実行委員会も張り切って準備をすすめております。

茅ヶ崎方式英語会創始者・松山薫の基調講演に始まり、長年英語教育にたずさわってこられた先生方、また、国際社会で生きた英語に長年接してこられた方々の、**楽しくかつ、ためになる講演**をお聴きいただけます。お申込多数のため200名収容の小ホールへ変更した講座もあります。小ホールの定員まではまだ若干の余裕があります。まだお申込みいただいていない方は、英語会(03-3288-2770)にお問合せのうえ、是非お申込みください。

「茅ヶ崎愛読者会」を終えて

福岡中央校代表 蓮尾恵子

2月11日(祝日)、小雨降る中、福岡市内中心部にあります通称「あいれふ」の10F講堂に57名のお客様をお迎えし、初めての「茅ヶ崎愛読者会」をさせて頂きました。

マンスリー巻末の広告をご覧になられた方の中には、「なぜ、福岡が最初に？」と思われた方もあったのではないのでしょうか？何を隠そう、(隠すほどでもない)発起人が私、蓮尾だったからというだけのことです。

思いついたのは9月初旬。夏の暑さからようやく解放され始めた頃、秋風が立つと共に、会員も休会が目立つようになってきました。その理由は、平均年齢が約50才、女性が多いわが校ならではの理由——介護or娘の出産のお手伝いです。現在の会員構成では今後もこの状態は続くでしょうし、私自身も遂に渦中の人となりましたので、新規会員開拓の必要に迫られておりました。

一方、一昨年(2008)の年末恒例、「協力校有志セミナー&忘年会」のセミナーの席上で(決して酒の席上ではありません！)大美賀さん(社長様なのに、つい気安くお呼びしてすみません。)が、英語会としても協力校が栄えるよう何かしたいと思うのですが、何か良いアイディアはないですか、というような趣旨のことを話されました。これがずっと頭の隅に引っ掛かっていて、何かないかなあ、と考えるともなく考えている状態でした。

話はまたまた変わって、私は、現在は全くの会費会員になり下がり末席を汚している有様ですが、「婦人の友」という雑誌の愛読者の会である「全国友の会」の中の「福岡友の会」に籍を置いております。この「愛読者の会」という言葉から、「そうだ！茅ヶ崎もマンスリーの愛読者が全国にいるじゃないか！この人たちは茅ヶ崎方式を良いと思っている人たちなんだから、この人たちに独習とは違う教室学習の意義やメリットを伝えることができれば、会員になってくれるかもしれない。協力校や準協力校を開設しようと思う人も出てくるかもしれない。もし、一堂に会することができれば(福岡中央校オープン時と同様に)本屋さんに来てもらって茅ヶ崎の書籍販売だってできるかもしれない。」と、まあ、

単純に考えたわけですが。でも、これって協力校にも、本部にも、出版にも悪い話ではないですよね？それで、大美賀さん宛てに Twitter もどきをしてみましたところ、思いもかけず本部も出版も乗って頂き、協力してくださることになりました。

マンスリーに2回、The Student Times の広告でも1回の告知、愛読者への DM 発送、当日来場者へのプレゼントなど、協力校1校ではとてもできないような支援をしていただきました。紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。

年明けそろそろお申し込みが来てもよさそうだぞ…との期待とは裏腹に反応の鈍いこと。う～ん、まだ正月ボケかなあ～。不安な中、メールを送った旧会員の方数名からすぐに返信が来ました。「お知らせありがとうございます。出席します！」ああ、有難い、茅ヶ崎の輪！！さらに、講師の先生方からも1月末の英検会場や TOEIC 会場にチラシ配りに行きましょう！と応援の声。ちょっと恥ずかしかったけど大声で叫びました。チラシをもらってくれなくても「茅ヶ崎方式」という名前が耳に残るようにと。

「茅ヶ崎愛読者会」では会員でないと行きにくいかな、と思い別バージョン「英語リスニング学習会」も作成し、当日何があるのか具体的な内容を書いたチラシも作成。さらにそれを私製葉書にして、郵送、手渡し、行きつけのレストランに置いてもらうなど。それでも期待値にはなかなか届かず、朝日、読売、毎日、西日本新聞の4社にイベント掲載のお願いに上がり、幸い毎日が直前の日曜日に掲載してくれました。小さな記事でしたが、皆さん、案外見てるものなんですね。これでラスト10名の追加。当日は冷たい雨が降り、お見えにならなかった方もありましたが、飛び込みもあって57名の参加となりました。

「なぜ聴きとれないのか？学習会13年間でわかったこと」と題して、リスニングの障害とその解決法を簡単にまとめてお話し、その後C1～C3までニュースを聴いてもらいました。単語テストのところで音声とスクリプトが違うという大ポカをしてしまい、「どうしよう！」と思いましたが、「いつもこんな失敗してるんですよ。」と言うと、会員さんが「そうそう。」とにこにこ笑っておられて救われました。

休憩をはさんで、茅ヶ崎出版の柴田様から英語学習の現状や茅ヶ崎草創期のお話などを伺いました。さらに、英語会本部の大美賀様より協力校開設の説明があり、最後にお楽しみ抽選会をしました。出版からは参加者全員に行きわたって余りあるプレゼント（マンスリー最新号とポケット版4000語）をご用意いただき、「全員にプレゼントあります。」と伝えた時の会場の皆さんの嬉しそうな顔・顔・顔！お見せしたかったですよ。福岡中央校としても、無料受講券3回分（9,450円相当）を3名様、書籍を2名様分を用意しており、こちらは抽選となりました。

終了後の評価は概ね好評でしたし、その後すでに2名の入会者決定。抽選とは別に無料体験を予約している方やお問い合わせもきているのでほっとしています。

対費用効果など経営面重視で評価し直せば、また違うのかもかもしれませんが、「買わぬ宝くじは当たらぬ。まかぬ種は生えぬ。」長期スパンで見ればきっと芽出す柿の種だと思います。

九州各地の協力校さんを紹介する冊子「協力校やってる人はこんな人」の原稿を送ってくださったメールの中にあつた「『茅ヶ崎家族』みたいな連帯感がありますね、先生にも生徒にも。」という言葉を実感できました。英語会本部や茅ヶ崎出版ともです。

最後にそれを裏付けるお話を。今日（26日）、午前の学習会終了後、真央ちゃんのスケートまだ間に合うと皆でそれっぽかり近くの電器店へ押しかけ観戦。そこで会員さんがTVのインタビューを受けられました。彼女いわく、最後にこう言えば良かったな。「スケートは真央ちゃん、英語は茅ヶ崎」って。感謝。



《京都校》 京都市上京区

代表 歳森 恵美

茅ヶ崎方式 30 周年、おめでとうございます。
いつも素晴らしい教材を準備していただき感謝しております。

京都校は協力校の募集が始まる半年前、1995 年から京都教室として出発し、関西では一番初めの協力校となりました。京都校も 15 年目になります。
当時は「茅ヶ崎方式」の知名度も皆無に近く、書店を回ってテキストをおいてもらったり、宣伝をしたりと走り回っていたのが今では懐かしいです。

1996 年の茅ヶ崎方式英語会の新年会に茅ヶ崎まで一緒に連れて行った当時 4 歳だった息子はもうこの春から大学生になります。

その分私も年をとったわけですが、その間、茅ヶ崎英語も「知る人ぞ知る」と、英語学習者の間では定評のある学習法となっています。特に英語を教える人たちの間では知名度があり、私も教育委員会のご依頼で、高校教師講習会で、2 回ほど茅ヶ崎方式をご紹介しました。高校生に茅ヶ崎を取り入れておられる先生方もおられるし、また先生自体が茅ヶ崎方式で勉強を続けられるかたも大変多くおられます。

京都校の生徒さんも始めは少人数でしたが、いまでは 100 人以上で安定しており、10 年以上続けてくださる方も何人もおられます。また、一旦都合で休会されても、5、6 年たってから、親の介護がすんで再開されたり、逆に子育てが一段落したから、転勤先から帰ってきたので、などといった理由で再会される方もたくさんおられて教える側としてとても嬉しく思っています。

協力校もたくさんできて仲間が増えてきました。
協力校といってもそれぞれ特徴があり、同じ教材を使っても個性を生かしているように思えます。そしてそこがフランチャイズと違う良いところだと思います。

京都校は、英語の勉強はもちろんですが、必要な人にはコーチングを行い、生徒さん個人個人の自己実現をお手伝いする場合があります。

各人の目標はそれぞれ違っています。資格試験に合格すること、仕事で使いこなせるようになること、就職のため、趣味として、老化防止のため、と言う方もおられます。

同じ茅ヶ崎の教材を使って、自分自身の目標に向かって仲間と助け合いながら学習していくことは、素晴らしいと思います。

学習者にとって、長く続けていればいるほど茅ヶ崎方式のよさが分かってくるような協力校でありたいと思っています。

また 10 年後を楽しみに頑張っていきたいと思っています。

～ イベント便り ～

酒蔵ツアー



浜松校 C3会員 石川 美智子

昨年5月の熱血アメリカ人が造るビール醸造所を訪れる沼田方面行きバスツアーに続く第2弾です。今回は1月31日、富士の麓で元禄時代から続く老舗酒蔵ツアーに行ってきました。参加者はアメリカ、イギリス、ブラジル、中国からの友人、知人を含めた20数名。バスを借り切ったのバイリンガルツアーでした。今回のメインは何と言っても日本酒。富士山の湧き水で造られた新酒の数々の利き酒があるということで、ツアー前には禁酒して臨んだ気合いの入っていた人も。

私たちが訪れた富士錦酒造ではまず始めに、酒造りの工程をビデオでお勉強。（私たちにとっては松島先生がツアーに先立ち、日本酒学習会を開催してくださっていたので、おさらいという感じでした。）驚いたことに、そのビデオは英語でも視聴でき、茅ヶ崎教室のツアーとしては迷わず英語版を選択しました。その後は創業から18代目という社長さんが蔵の中や外の田んぼで富士山を背に酒造りのおもしろさや大変さをお話ししてくださいました。蔵の中では大きなタンクの蓋を開けてくださり、もろみがぶくぶくと泡をたてて発酵している様子を上からのぞき込んで見ることができました。その時にタンクの中の空気を集めるように大きく手で自分の顔にふりかけてみると、何ともかぐわしい香りが。また、工程の最後ではタンクから直接搾ったばかりの炭酸がまだ残る原酒も味見させていただきました。モンドセレクション金賞を受賞したという大吟醸、吟醸、純米酒などなど、どれも美味しくお土産選びも一苦労でした。

今回のツアーでは酒蔵以外にも、田貫湖、白糸の滝、富士山本宮浅間神社などの名所旧跡にも立ち寄り、昼食にはB級グルメで有名な富士宮焼きそばを堪能しました。バスの中でも浅間神社にまつわる古事記の一節（コノハナサクヤ姫伝説）を英語でパペットショーで紹介したり、ノーエ節の民謡を合唱したりと盛りだくさんの内容でした。最後に寄ったお料理店「和雅家」では自家製ソーセージやつくねなどの美味しい料理と、さきほど買ったばかりのお酒をみんなで一緒にいただきました。幹事さんはじめ、いろいろと準備して下さった方々、ありがとうございました。胃も心も大満足な充実の一日でありました。

お知らせ

第10回「TOEIC IP テスト」を実施します。実施期間は5月29日～6月13日。

詳細は所属の協力校へおたずね下さい。

あとがき：4月7日に開催される茅ヶ崎方式30年記念講演会では、普段お聴きになれない著名な先生方のお話が多くあります。私としては、中学生の頃毎回楽しく聴いていたNHK講座の田崎清忠先生の講演も期待しています。（H記）